第五講　論説　政治編

次の問題文を読み、後の問いに答えなさい。

権力がそれ自身の魅力を持つことは、政治的統合への関与という目的と権力という手段との関係が更に一層錯綜（さくそう）したものになる可能性を示唆している。それだけに政治家には政治活動の実態に対する距離感が期待されることになる（単なる「権力亡者」からの距離感の醸成）。まず、政治家は集団全体の事柄に配慮すべき存在であること（ア）から、「自分のこと」への配慮（イ）からは距離をとることが期待されてきた。「自分のこと」にしか興味のない人間は政治家にはならないだろうし、なってもらっては困るということである。「自分のこと」にしか興味がないならば、ひたすらそれに専念するのが当然であり、①そういう人間が権力の追求を始めればその結末は不幸なことになる。精々、権力の私的な、ケチな濫用に終わるのがオチだからである。

アリストテレスは名誉に関する徳として、メガロプシュキア（魂の大いなること、高大なること）をあげている。翻訳では矜持（きょうじ）と訳されている。②矜持ある人とは、「外的な善」の中で最高のものである大いなる栄光や名誉に（ウ）自ら与る（あずか）のに値するということを（エ）自らの価値に依拠して自任している人である。彼は「大きいもの」に値する人間でなければならず、当然、よき卓越した人間であること、「うるわしくよきひとたること」を前提にしている。

富や政治的影響力といったものは矜持に寄与するものであるが、そうした幸運な諸条件だけに根拠を持つ優越性だけでは矜持ある人間ではあり得ない。こうした外的な条件をＡ笠に着て優越していると考えるのは傲慢（ごうまん）であり、驕奢（きょうしゃ）であるに過ぎない。真に矜持のある人は、幸運な諸条件が変わってもむやみに喜ばず、むやみに苦しむことはない。何よりも矜持のある人は、大きなことのために危険を冒すことを恐れず、生命を惜しまない人である。他人に何物をも求めずに、自ら進んで人々の役に立ち、権勢を持つ者には尊大に振舞い、弱者には控え目に対し、他人の目を気にすることなく率直に語り行動する。瑣末（さまつ）なこと、個人的なことに専ら関心を奪われたりするのは「大きなこと」に値することを考える矜持の人にはふさわしくない態度である。そして何事をも大きいと考えることなく、静かに落ち着いて、興奮することなく行動するのが、矜持ある人間にふさわしいという。

アリストテレスは矜持と並んで豪華（メガロペイペイア）についても言及している。これは壮大な出費を公共のために、うるわしく、ふさわしい形で行うことによって、人々の尊敬を集める資質である。豪華な人は自らの資力にふさわしい形で、自分自身のためにではなく、公共的なもろもろの事柄のために費やす。それと対比されるのが「こまかさ」である。

ここに描かれた矜持ある人間の姿は、「自分のこと」から可能な限り距離をおいて、「大きなこと」への強烈なコミットメントによって――危険を恐れず、生命を惜しむことなく――大きな名誉という最高の外的な善を指針として生きる人である。「自分のこと」と「大きなこと」とは対照的であり、前者はやがて忘却の対象にしかならないのに対して、後者は社会の記憶として残り続けるという意味で、ある種の永続性――俗に、「　　　　」――ことにつながる。政治活動が権力をめぐる競争であるとともに名誉をめぐる競争であることからも、この③矜持ある人間が政治家の姿と重なっていることは明らかである。

勿論、政治の世界は徒に名誉や権力を求める人間たちが殺到するアリーナ（舞台）でもあるとすれば、真に矜持ある人間なのか、それとも富や権勢をひたすら誇っているだけの人間なのかの区別は容易ではない。後者は「大きなこと」への関心をB売り物にして実は「自分のこと」に専ら関心を向けているに過ぎない。そこでアリストテレスは「うるわしくよきひとたること」というギリシア人の理想の条件を付し、この区別の可能性を根拠づけている。《中略》

有名なプラトンの哲人王論には、政治家の姿を探る興味深いヒントが見られる。ここでは哲学者にふさわしい資質と政治家の資質はいわば重ね合わせの関係にある。哲人王は真の実在（イデアの世界）を確実に認識しているのみならず、経験においてもその徳性においても他の人間にひけをとらない人間のことである。そこで哲学者の自然的資質がチェックされる。まず、虚偽を受け入れないことが真理への熱情との関係で重要な資質となる。肉体的な欲望に関しては節度のある人間であること、金銭を追い求めたりすることがないことが資質として重要である。

注目すべきは、「狭量な精神」は致命的な欠陥とされている点である。「万有の全体を常に憧れ求める」こと、従ってこの「気宇壮大な精神、全時間と全存在を観想する精神」にとって「狭量な精神」ほど、矛盾するものはない。総じて、この世の事柄に関心を奪われたり、臆病であったりしてはならない。知的には、記憶力がよく、理解力があることが必要とされる。かくして哲学を十分に適う資質としては、「記憶がよく、ものわかりがよく、度量が大きく、優雅で、真理と正義と勇気と節制を愛する」人間である必要がある。こうした資質を備えた人間は数が限られているが、優れた資質を持った人間も現実にはその悪い環境の

ためにしばしば堕落させられている。すなわち、知性を欠いたまま、ひたすら野心の虜(とりこ)となり、ポリスに深刻な害悪をもたらすような存在になってしまう、と。
ここにはこれまでの議論にも見られた節度をはじめとする徳性の他に、哲学に通ずる知的能力が必要不可欠な資質として付け加えられている。

（佐々木毅『政治の精神』）

〔注〕
○コミットメント――関与すること。　○ポリス――古代ギリシアの都市国家。

問1　空白部に入る言葉として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。
1　歴史に名を残す　2　歴史は繰り返す　3　歴史を作る
4　歴史の証人となる

問2　══線部ア・イの「から」に関する説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。
1　アは原因・理由の格助詞、イは起点・原点の格助詞。
2　アもイも起点・原点の格助詞。
3　アは起点・原点の接続助詞、イは原因・理由の格助詞。
4　アもイも原因・理由の接続助詞。

問3　＝＝線部ウ・エの「自ら」に関する説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

1　ウ・エともに「おのずから」と読む名詞である。
2　ウは「みずから」と読む副詞、エは「みずから」と読む名詞である。
3　ウは「おのずから」と読む名詞、エは「みずから」と読む副詞である。
4　ウ・エともに「みずから」と読む名詞である。

問4　〰〰線部Ａ「笠に着て」、Ｂ「売り物」の文中での意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

Ａ

1　有力な後ろ盾をあてにして大きな態度をとること。
2　人からの羨望（せんぼう）を一身に集めて悦に入ること。
3　借り物をまるで自分の物のように見せかけること。
4　大袈裟（おおげさ）に飾り立てて実際以上に見せようとすること。

Ｂ

1　実現可能なマニフェスト。
2　最も人目を引く得意なもの。
3　自らのアピールポイントへの評価。
4　難点はあるが人々から気に入られるもの。

問5　――線部①とあるが、「その結末」に該当するものとして最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

1　富や政治的影響力による優越性に関心が奪われること。
2　自らの財産を公共のために投げ出すのをよしとしなくなること。
3　政治の世界に名誉や権力を求める人間たちが殺到すること。
4　野心の虜となって国家に深刻な害悪をもたらすこと。

問6　――線部②に関して、アリストテレスが考えていた真に「矜持ある人」として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

1　いかなる危険も恐れずに生命も惜しまないで事に当たり、人々から称賛されることを喜びとしている人。
2　壮大な出費が可能なほど莫大な財産を所有し、それゆえに人々から支持と称賛を受けて本人も自覚している人。
3　自分の生活基盤は確保した上で公共のために財産を有効に使い、人々から大いなる栄光や名誉を与えられた人。
4　権力者には高慢であってもそうでない人には謙虚に接し、人や社会のために自己犠牲をまったく厭わない人。

知識モノ解説

文学史・人物紹介

●佐々木毅＝ささき　たけし（一九四二〜）秋田県生まれ、東京大学法学部卒。東大法学部教授、東大学長などを歴任。政治学者

●アリストテレス　古代ギリシアの哲学者。著書に『美学』『倫理学』『政治学』『物理学』『形而上学』『詩学』などがあり、万学の創始者と呼ばれる。アレクサンドロス大王の家庭教師を務めたことでも知られる。プラトンの弟子。

●プラトン　古代ギリシアの哲学者。アカデメイアという学校を創始し、アリストテレスもそこで学んだ。師であったソクラテスを主人公にした対話型の哲学書を多数残した。代表作『ソクラテスの弁明』

語句

錯綜＝さくそう↓複雑に入り組むこと。絡(から)み合うこと

示唆＝しさ↓間接的に示すこと。暗示すること

醸成＝じょうせい↓発酵を通じて酒などをつくることがもともとの意味だが、転じて、時間をかけて何かを作りあげるという意味で使われる

濫用＝らんよう↓本来の使い方や限度を超えて勝手に使うこと

オチ↓笑いをとるオチではなく、本文では予測されるよくない結末という意味

メガロプシュキア↓メガやメガロは「大きい」を意味するギリシア語。例「大都市＝メガロポリス」　プシュケー（psyche）はギリシア語で「魂」の意で「心理学＝psychology サイコロジー」の語源

矜持＝きょうじ→誇り・プライド
依拠＝いきょ→よりどころにする・基盤とする
自任＝じにん→ふさわしい能力や資格が自分にはあると考えること
卓越＝たくえつ→普通の人には及びもつかないほど優れていること
寄与＝きよ→大きく役立つこと。貢献すること
傲慢＝ごうまん→思い上がって偉そうにすること
驕奢＝きょうしゃ→自分の財力や能力を過信して、相手を見下すこと。「驕」「奢」はそれぞれ単独で「おごり」とも読む
権勢＝けんせい→支配的な地位や権力
尊大＝そんだい→どうだとばかりに自己を顕示して、相手を見下すこと
些末・瑣末＝さまつ→細かく重要ではないこと
資質＝ししつ→生まれ持っての性質や才能
節度＝せつど→人に迷惑をかけないなど、自分の行動についての良識
狭量＝きょうりょう→度量、人間としての器が狭く小さいこと
気宇壮大＝きうそうだい→心のスケールが大きいこと
観想＝心を集中させること。物事の本質をつかむこと
節制＝せっせい→とくに飲食について自己管理ができていること
野心＝自分が主人に取って代わって天下を取ろうとするなど悪い意味で使われることが多い。一方で大望、チャレンジ精神などとしてよい意味で使われることもある

復習問題　第五講

次の傍線部にあたる漢字を、次の各選択肢から選びなさい。

（ア）情報が激しく錯ソウする　①争　②綜　③走　④操　⑤燥

（イ）示サに富んだ著作を残す　①唆　②差　③詐　④査　⑤鎖

（ウ）学びの雰囲気をジョウ成する　①場　②譲　③醸　④嬢　⑤状

（エ）討論の能力がタク越している　①拓　②卓　③択　④託　⑤托

（オ）財政の再建策にキ与する　①機　②帰　③軌　④着　⑤寄

（カ）他人に対してゴウ慢に振舞う　①傲　②豪　③郷　④剛　⑤壕

（キ）大臣としてのシ質が問われる　①志　②氏　③資　④師　⑤至

（ク）言動にセツ度がなくなる　①説　②切　③摂　④節　⑤拙

（ケ）地方で大きな権セイをもつ　①制　②聖　③勢　④政　⑤征

（コ）人前に出ることにオク病になる　①憶　②臆　③億　④懊　⑤奥

第五講　模範解答

問1　1

問2　1

問3　2

問4　A　1　B　2

問5　1

問6　4

復習問題　第五講　模範解答

（ア）②　（イ）①　（ウ）③　（エ）②　（オ）⑤
（カ）①　（キ）③　（ク）④　（ケ）③　（コ）②

解答漢字一覧

（ア）錯綜　（イ）示唆　（ウ）醸成　（エ）卓越　（オ）寄与
（カ）傲慢　（キ）資質　（ク）節度　（ケ）権勢　（コ）臆病